

# 安全データシート

## ステアロイルクロリド

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

### 1. 化学品及び会社情報

#### 製品識別子

製品名 : ステアロイルクロリド  
CB番号 : CB8852870  
CAS : 112-76-5  
EINECS番号 : 204-004-5  
同義語 : ステアリン酸クロリド

#### 物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途 : 医薬原料, 有機合成中間体  
推奨されない用途 : なし

#### 会社ID

会社名 : Chemicalbook  
住所 : 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟  
電話 : 400-158-6606

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

##### 分類実施日

GHS改訂4版を使用

平成24年。政府向けGHS分類ガイダンス(H22.7版)を使用

##### 健康に対する有害性

皮膚腐食性/刺激性 区分2

##### 環境に対する有害性

オゾン層への有害性 分類実施中

水生環境有害性(長期間) 分類実施中

水生環境有害性(急性) 分類実施中

#### 2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

##### 絵表示

GHS05



## 注意喚起語

危険

## 危険有害性情報

H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷。

## 注意書き

### 安全対策

P280 保護手袋 / 保護衣 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。

P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

P260 粉じんを吸入しないこと。

### 応急措置

P363 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

P305 + P351 + P338 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P303 + P361 + P353 皮膚（又は髪）に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水【又はシャワー】で洗うこと。

P301 + P330 + P331 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

### 保管

P405 施錠して保管すること。

### 廃棄

P501 内容物 / 容器を承認された処理施設に廃棄すること。

---

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
別名	: Octadecanoyl chloride
化学特性(示性式、構造式等)	: C18H35ClO
分子量	: 302.92 g/mol
CAS番号	: 112-76-5
EC番号	: 204-004-5
化審法官報公示番号	: 2-632
安衛法官報公示番号	: -

---

## 4. 応急措置

### 4.1 必要な応急手当

#### 一般的アドバイス

応急措置担当者は自分が暴露しないよう、適切な防護を行う。この安全データシートを担当医に見せる。

#### 吸入した場合

吸入後は新鮮な空気を吸うこと。ただちに医師の診察を受けること。

#### 皮膚に付着した場合

皮膚に接触した場合: すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。直ちに医師を呼ぶ。

#### 眼に入った場合

眼に触れた後は多量の水ですすぐこと。ただちに眼科医の診察を受けること。コンタクトレンズをはずす。

#### 飲み込んだ場合

飲み込んだ後は水を飲ませ(多くてもグラス2杯)、嘔吐を避ける(穿孔のリスクあり)直ちに医師を呼ぶ。中和させようとしないこと。

#### 4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

#### 4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

---

## 5. 火災時の措置

### 5.1 消火剤

使ってはならない消火剤

水泡

適切な消火剤

二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) 粉末

### 5.2 特有の危険有害性

火災時に有害な燃焼ガスや蒸気を生じるおそれあり。

次の臓器には触れないであろう: 水

可燃性。

塩化水素ガス

炭素酸化物

### 5.3 消防士へのアドバイス

自給式呼吸器がある場合のみ危険区域に留まってもよい。安全なゾーンまで離れるか適切な保護衣を着用して、皮膚に触れないようにすること。

### 5.4 詳細情報

ガス / 蒸気 / ミストを水スプレージェットで抑える (除去する)。消火水が、地上水または地下水のシステムを汚染しないようにする。

---

## 6. 漏出時の措置

### 6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

救急隊員以外への助言: ほこりを吸い込まないこと。触れないようにすること。十分な換気を確認する。危険なエリアから避難し、緊急時手順に従い、専門家に相談のこと個人保護については項目 8 を参照する。

### 6.2 環境に対する注意事項

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

### 6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

排水溝に蓋をすること。こぼれたら集めて結合させ、ポンプですくい取る。物質の制限があれば順守のこと (セクション 7、10参照) 乾燥剤で処置すること。正しく廃棄すること。関係エリアを清掃のこと。ほこりを生じないようにすること。

## 6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

---

# 7. 取扱い及び保管上の注意

## 7.1 安全な取扱いのための予防措置

### 安全取扱注意事項

作業場を乾燥状態に保つこと。本品が水と接しないようにすること。

### 衛生対策

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。注意事項は項目2.2を参照。

## 7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

### 保管クラス

保管クラス (ドイツ) (TRGS 510): 8A: 可燃性、腐食性危険物

### 保管条件

密閉のこと。乾燥。保管中は、製品と水との接触を絶対に避ける。湿気に反応する。

## 7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

---

# 8. ばく露防止及び保護措置

## 8.1 管理濃度

### コンポーネント別作業環境測定パラメータ

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

## 8.2 曝露防止

### 適切な技術的管理

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。

### 保護具

#### 眼 / 顔面の保護

NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。密着性の高い安全ゴーグル

#### 皮膚及び身体の保護具

#### 要

#### 身体の保護

#### 保護衣

#### 呼吸用保護具

ほこりが生じた際に必要。

次の規格に準拠しているフィルター式呼吸器保護具を推奨します。DIN EN 143、DIN 14387および使用済み呼吸器保護システムに関連する他の付属規格。

## 9. 物理的及び化学的性質

### Information on basic physicochemical properties

形状 固体(MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on Aug. 2012))

色 白色(MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on Aug. 2012))

臭い 刺激臭(GESTIS (Access on Aug. 2012))

臭いのしきい(閾)値 データなし。

pH データなし。

データなし。

データなし。

230°C(IUCLID (2000))

7.39(EST)(SRC Phys Prop (Access on Aug. 2012))

熱アルコール、炭化水素類、エーテル類に可溶。(HSDB (2003))

水:加水分解(GESTIS (Access on Aug. 2012))

0.897(25°C)(MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on Aug. 2012))

データなし。

0.000257 mmHg(25°C)(SRC Phys Prop (Access on Aug. 2012))

データなし。

データなし。

データなし。

165°C(CC)(IUCLID (2000))

174 - 178°C(3hPa)(MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on Aug. 2012))

21-22°C(MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on Aug. 2012))

### 融点・凝固点

21-22°C(MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on Aug. 2012))

### 沸点、初留点及び沸騰範囲

174 - 178°C(3hPa)(MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on Aug. 2012))

### 引火点

165°C(CC)(IUCLID (2000))

### 蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし。

### 燃焼性(固体、気体)

データなし。

### 燃焼又は爆発範囲

データなし。

### 蒸気圧

0.000257 mmHg(25℃)(SRC Phys Prop (Access on Aug. 2012))

### 蒸気密度

データなし。

### 密度

0.897(25℃)(MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on Aug. 2012))

### 溶解度

熱アルコール、炭化水素類、エーテル類に可溶。(HSDB (2003))

水:加水分解(GESTIS (Access on Aug. 2012))

### n-オクタノール/水分配係数

7.39(EST)(SRC Phys Prop (Access on Aug. 2012))

### 自然発火温度

230℃(IUCLID (2000))

### 分解温度

データなし。

### 粘度(粘性率)

データなし。

---

## 10. 安定性及び反応性

### 10.1 反応性

可燃性有機物質及び製剤に概ね該当：微細に分散し、舞い上がった場合、粉じん爆発を起こす可能性が通常想定される。

### 10.2 化学的安定性

湿気に弱い

### 10.3 危険有害反応可能性

データなし

### 10.4 避けるべき条件

湿気

### 10.5 混触危険物質

水, アルコール類, 酸化剤, 強塩基類

### 10.6 危険有害な分解生成物

---

## 11. 有害性情報

### 急性毒性

#### 経口

ラットのLD50値は、5780mg/kg、6080mg/kg (IUCLID (2000))に基づき、区分外とした。なお、本物質は水と接触すると塩化水素を発生するため、健康有害性に関しては塩化水素(CAS:7647-01-0)も参照のこと。GHS分類:区分外

#### 経皮

データなし。GHS分類:分類できない

#### 吸入:ガス

GHSの定義における固体である。GHS分類:分類対象外

#### 吸入:蒸気

データ不足。なお、ラットに飽和蒸気圧濃度(約 0.0042 mg/L)を8時間ばく露した結果、死亡は認められなかったと報告されているが(IUCLID (2000))、詳細は不明である。GHS分類:分類できない

#### 吸入:粉じん及びミスト

データなし。GHS分類:分類できない

### 皮膚腐食性及び刺激性

ウサギを用いた皮膚刺激性試験が2件あり、いずれも刺激性あり(irritating)との結果(IUCLID (2000))により区分2とした。GHS分類:区分2

### 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

2件のウサギを用いた眼刺激性試験で、それぞれ刺激性あり(irritating)、刺激性なし(not irritating)(いずれも IUCLID (2000))と結果が相反しており、また試験の詳細も不明であるため分類できない。GHS分類:分類できない

### 呼吸器感作性

データなし。GHS分類:分類できない

### 皮膚感作性

データなし。GHS分類:分類できない

### 生殖細胞変異原性

In vivo試験のデータがないことから分類できない。なお、エームス試験では陰性の結果が報告されている(IUCLID (2000))。GHS分類:分類できない

### 発がん性

データなし。GHS分類:分類できない

### 生殖毒性

データなし。GHS分類:分類できない

### 特定標的臓器毒性(単回ばく露)

データなし。GHS分類:分類できない

## 特定標的臓器毒性(反復ばく露)

データなし。GHS分類:分類できない

## 吸引性呼吸器有害性

データなし。GHS分類:分類できない

---

## 12. 環境影響情報

### 12.1 生態毒性

データなし

### 12.2 残留性・分解性

データなし

### 12.3 生体蓄積性

データなし

### 12.4 土壌中の移動性

データなし

### 12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

### 12.6 内分泌かく乱性

データなし

### 12.7 他の有害影響

データなし

---

## 13. 廃棄上の注意

### 13.1 廃棄物処理方法

#### 製品

内容及び容器は、関連法規及び各自治体の条例等の規制に従い、産業廃棄物として適切に処理すること。

---

## 14. 輸送上の注意

### 14.1 国連番号

ADR/RID (陸上規制) : 3261 IMDG (海上規制) : 3261 IATA-DGR (航空規制) : 3261

### 14.2 国連輸送名

IATA-DGR (航空規制) : Corrosive solid, acidic, organic, n.o.s. (stearoyl chloride)



IMDG（海上規制）：CORROSIVE SOLID, ACIDIC, ORGANIC, N.O.S. (stearoyl chloride)

ADR/RID（陸上規制）：CORROSIVE SOLID, ACIDIC, ORGANIC, N.O.S. (ステアロイル=クロリド)

### 14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID（陸上規制）：8 IMDG（海上規制）：8 IATA-DGR（航空規制）：8

### 14.4 容器等級

ADR/RID（陸上規制）：II IMDG（海上規制）：II IATA-DGR（航空規制）：II

### 14.5 環境危険有害性

非該当

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR（航空規制）：非該当

### 14.6 特別の安全対策

なし

### 14.7 混触危険物質

水, アルコール類, 酸化剤, 強塩基類

---

## 15. 適用法令

### 消防法

第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体

### 船舶安全法

腐食性物質

### 航空法

腐食性物質

---

## 16. その他の情報

### 略語と頭字語

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

IATA: 国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

LC50: 致死濃度 50%

LD50: 致死量 50%

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

STEL: 短期暴露限度

TWA: 時間加重平均

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

## 参考文献

- 【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>
- 【2】化学物質審査規制法（化審法） <https://www.env.go.jp>
- 【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） <https://www.chemicoco.env.go.jp>
- 【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP） <https://www.nite.go.jp/>
- 【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>
- 【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>
- 【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>
- 【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト [http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request\\_locale=en](http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request_locale=en)
- 【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>
- 【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>
- 【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>
- 【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>
- 【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>
- 【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

### 免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。